

カーボンフットプリントを活用した建物建設のCO₂排出量「見える化」

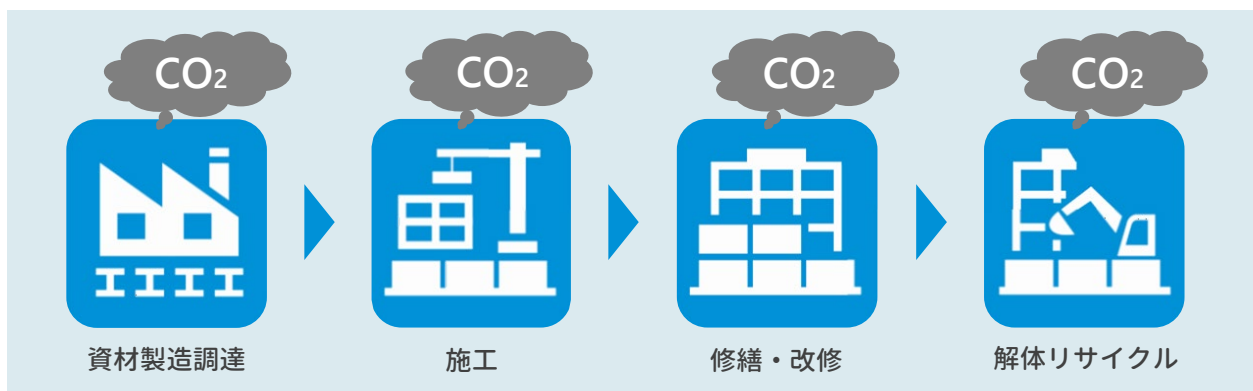


安藤ハザマ

CFP評価の概要と評価事例

概要

安藤ハザマは、建築物を一製品と捉え、**カーボンフットプリント (CFP)** を活用してCO₂を算定・評価・情報開示できる仕組みを確立しました。



CO₂評価の現状

- ◆業界統一的な算定ルールがない
- ◆設計者にLCAの知見がない
- ◆どこまで細かく試算するか等
依頼者、実施者の考え方による

物件毎の排出量提示が難しい

安藤ハザマのCFP評価

- ◆ISOに準拠した統一的な試算
- ◆第三者認証型環境ラベル付与による信頼性・透明性確保

物件毎の排出量提示の仕組みを確立



SuMPO環境ラベルプログラム
Japan EPD Program by SuMPO

CFPはISO（国際標準化機構）に準拠した環境ラベルの一つです。日本国内では、一般社団法人サステナブル経営推進機構の「SuMPO環境ラベルプログラム」によって運営されています。

評価事例

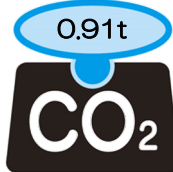
当社設計・施工案件「鷺沼独身寮」



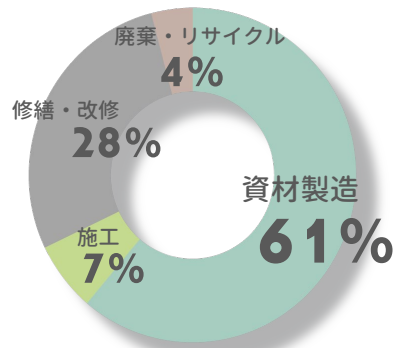
※設計情報に基づき、建屋製造、修繕・改修、廃棄・リサイクルを対象として算定しています。家具や設備機器、外構および建設物運用段階の評価は含まれていません。

CO₂排出量が多い項目を把握し、注力すべき項目を「見える化」します。

床面積1㎡・耐用年数65年あたり



CO₂の「見える化」
カーボンフットプリント
登録番号：JR-AA-21001C
<http://ecoleaf-label.jp/>



お問い合わせ

建設本部 技術研究所 脱炭素技術開発部

☎ 029-858-8814

CFP 評価の活用方法について

活用方法例 ①

Case 01 ベンダーからの工場のカーボンニュートラル化要求への対応

工場のカーボンニュートラル化を目指してほしいのだけど、そもそもこの工場はどれくらいのCO₂を出して建てられたの？



Case 02 将来ますます高い精度で要求されるサプライチェーン排出量の情報開示への活用

- ◆ プライム市場上場企業に求められるサステナビリティの取組みに関する情報開示
- ◆ SBT、TCFDなどの情報開示の根拠データとしての活用

当社が提供する建物建設に関わるCO₂排出量の「見える化」情報を、ステークホルダーとのコミュニケーション等にぜひご活用ください！

活用方法例 ②

CO₂削減の
具体的提案

環境にやさしい建材・工法のご提案

見える化した情報を基に、様々なCO₂削減の具体的提案が可能です。

項目	削減策	CO ₂ 削減量
普通コンクリート	低炭素型コンクリートへの変更	▲250 t
地盤改良固化材	低セメント材料への変更および攪拌工法の検討	▲100 t
躯体鉄骨	合理化設計による鉄骨数量の削減 (▲5%)	▲150 t
外壁用塗料	外壁用塗料 (ハイブリッドシリコン樹脂系)	▲300 t
一般電力使用による施工	再エネ電力調達100%	▲ 50 t

注) CO₂削減項目と削減量の数値は評価物件毎に異なります。

安藤ハザマでは、CFP評価で培ったライフサイクルアセスメント (LCA) 手法によって、CO₂だけでなく様々な環境影響を評価できます。製品やサービスの環境負荷の「見える化」でSDGsに貢献します。

